

令和7年度 7グループ研究のまとめ

令和7年度グループ研究テーマ

「考えよう、子供の主体性を引き出す授業
～チェックシートの活用～」

【昨年度の成果】

次の3点が主体性を引き出す授業のポイントである。

- ①児童・生徒の実態に応じた物（教具）や自分で選択できる教材を活用する。
- ②「いくつかの学習パターン」や「変化のある繰り返し」のある授業を設定する。
- ③自分のペースで活動できる環境を設定する。

【今年度の目標】

- ①昨年度の成果を、チェックシートを活用しながら検証する。
- ②検証する中で見えてくる授業改善の新たな気づきを、丁寧に見取る。

年 組 ()		◎○×△で記入		
	自立活動該当項目	① (/)	② (/)	③ (/)
注目時間				
姿勢 (座り方)	5身体の動き (1) 姿勢 (2)			
作業量 (活動量)				
反応度合い (発声)	6コミュニケーション (3) 言語形成			
表情	6コミュニケーション (1) 基礎能力			
要求 (子供からの)	6コミュニケーション (2) 表出 (3) 形成 (4) 手段			
やる気 手を動かす	2心理 (1) (2) 5身体の動き (1)			
人間関係 (コミュニケーション)	6コミュニケーション (1) (5)			
その他メモ ・授業改善のための工夫手立て ・気づいたこと など				

チェックシートのポイント

①継続して児童・生徒の様子を観察

②自立活動との関連

③いつでも見返す

→児童・生徒の主体性の促しへ
教員の日々の指導の改善へ

小学部 6 年

国語・算数

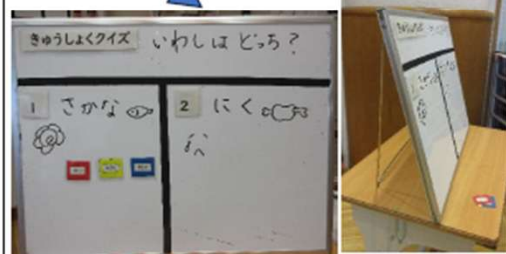
①活動内容

単元名「給食クイズをしよう（朝の会）」

活動内容 献立にまつわる 2 択クイズ

教材

板書をハンディ
ホワイトボード
に変更した



授業の様子



チェックシート

	6/14	9/10	備考
注目時間	○	◎	教師の書く文字をよく見ている。
姿勢（座り方）	△	○	立ち上がることで視線がボードに向きやすかった。
作業量（活動量）	△	○	指先でマグネットを貼る操作が上達した。
反応度合い	○	○	見比べる様子があった。
表情	○	◎	嬉しくて体を揺らしたり、笑顔になったりしていた。
子どもからの要求	△	○	先にやりたい気持ちの表出。
やる気	○	◎	「がんばるぞ、おー！」のかけ声で、やる気を見せていた。
人間関係	○	○	お互いの様子を見ようとしていた。譲り合いの気持ち。

☆チェックシートから読み取れること

- ・リズムのある言葉かけが定着して、やる気につながった。
- ・教材提示の工夫により、見比べや目と手の協応操作が向上した。
- ・友達に譲る気持ちが芽生えて、集団参加の意識が高まった。

☆主体性を引き出すポイント！

- ①【教材】日々の給食を題材としたクイズで、参加意欲を高めた。
- ②【変化】毎日同じかけ声で課題提示をしながらも、問題を変えて飽きずに取り組めるようにした。
- ③【環境】友達の様子を見て、真似をしたいと思えるような座席配置。

小学部 6 年

国語・算数

①活動内容

単元名「とけいをまなぼう」

活動内容 時計を動かし、「〇時」を読む

教材写真



授業の様子の写真



チェックシート

	10/6	10/15	備考
注目時間	◎	○	内容が分かり、画面を見なくなった児童がいた。
姿勢（座り方）	○	○	
作業量（活動量）	○	◎	自分から時計の針を動かすようになった。
反応度合い	○	◎	時計にフリガナを付けたことで読めるようになった。
表情	○	◎	集中していた様子から、やわらかい様子に変化した。
子どもからの要求	×	○	一緒に手を叩いたり指で数を表したりした。
やる気	△	○	テレビを見て自分で時計を動かす児童が増加した。
人間関係	○	○	教員と一人ずつ関わった。

☆チェックシートから読み取れること

- ・授業を繰り返すことでチェックシートの項目すべてがよくなるわけではなく、活動が減ることもある。

☆主体性を引き出すポイント！

- ①【教材】児童の実態に応じて時計の読み方にフリガナを付けた。
- ②【変化】1時から順番に提示したりばらばらに提示したりした。
- ③【環境】一人一人に時計を渡し、個人でも活動できるようにした。

研究の成果

1. チェックリストを活用することで気が付いたこと

- ・集団でチェックシートをみることによる新たな視点の気づき。
- ・項目があることで評価しやすい、授業を客観視。

2. 検証を通してさらに具体的に深められたこと

(1) 教材教具に関する深掘り

- ・児童生徒の好きなキャラクター、好きなこと、遊びの延長での取り組み。
- ・生活に基づいた、身近な題材（食べ物、給食）。
- ・視覚や触覚にアプローチ → 結果、自分から関わる、取り組み時間の延長など。

(2) 「いくつかの学習パターン」「変化のある繰り返し」の深掘り

○「学習パターンを繰り返す」

→見通しがもてることで落ち着く。安心できる。

→言葉掛けを予想して手を挙げる。やり直せる見通しに発展。

結果：児童生徒が一人でできるようになり教師の支援が少なくても達成できる。

○「繰り返す」から→「変化を付ける」

→変化は少しずつ。次に期待、他教科にも活用→すぐに対応。

(3) 「自分のペースを尊重した活動」の深掘り

- ・ 集中時間、参加する場所やタイミングに配慮が主体性に。
- ・ 取り組み進度の違いへの工夫。